

川を切り開いたら水不足？ 対策は新江用水！

■ 川の流れが変わって水不足に！

1731(享保16)年の阿賀野川の松ヶ崎堀割の決壊による本流化は、福島潟周辺に広大な干上がり地をもたらしました。しかしその反面、阿賀野川の水位が2mも低下し、阿賀野川の水を利用していた岡方などの阿賀野川右岸地域では取水が困難となりました。

そこで、水位の高い上流から用水を確保するという計画が立てられました。

■ 新しい用水路をつくる

1733(享保18)年、新発田藩の岡方組53ヵ村(安田、京ヶ瀬、北区の岡方・長浦など)は、幕府に新しい用水路の開削を願い出ました。これが新江用水路です。ときは新田開発を奨める8代将軍吉宗の時代です。幕府は用水路の重要性を認め、翌年3月に工事を始めました。幕府の技術陣と地元農民の努力により、この年12月に完成しました。

阿賀野川の上流である阿賀野市(安田地区)より取水し、末端は新潟市北区新崎(現在の新崎鉄工団地一帯)まで総延長約40km(10里)の水路で、約918ha(町)の水田を潤しました。

■ 改修されて、今も大活躍！

取水口の上流移動など、いくたびも様々な改修が重ねられてきました。

近代的な改修工事は、国営新江用水改良事業によって1947(昭和22)年か

ら始まりました。しかし、最流末が県営事業によって改修されたのは1965(昭和40)年でした。岡方第一小学校前に、このときの竣工記念碑が建っています。



その碑文では「…親々の遠き親々も知らざりし この歓びを石に刻して永代に伝う」と結ばれています。悲願成就の喜びを表した、まさに名文です。

現在の新江用水路は、1962(昭和37)年からの「国営阿賀野川用水農業水利事業」により造られた阿賀野市小松地内の阿賀野川頭首工から取水されています。小松隧道、六野瀬分土工を通過して新江幹線水路に送られ、およそ2,300haの農地を灌漑しています。

「晴れては水がなく、降っては一面泥の海」が越後平野の特徴です。矛盾しているようですが、排水に悩まされる一方で、水が不足します。新江用水路の開削は、延々と続くこの地域の水との闘いを象徴しています。



岡方第一小学校前を流れる新江用水